

(様式第4号)

上田市公立大学法人評価委員会 会議概要

1 審議会名	上田市公立大学法人評価委員会 (第5回)
2 日時	令和4年10月25日 午前9時30分から午前11時30分まで
3 会場	長野大学4号館3階 教授会室 (web会議併用)
4 出席者	田村秀委員長、鳥居希委員長職務代理者、佐藤明生委員、城下徹委員、西牧敦子委員
5 市側出席者	堀内大学改革担当参事、北沢学園都市推進室長、中山大学改革担当政策幹、堀内学園都市推進担当係長、倉澤主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 理由:
7 傍聴者	0人 記者 2人
8 会議概要作成年月日	令和4年10月31日

協 議 事 項 等

1 開会

2 議事

(1) 第2期中期目標案の策定について (資料1～5)

○資料に基づき、事務局が説明

(委員) 中期目標の地域貢献に関する目標のところ、前回口頭で申し上げたが、前回の会議資料1の6ページ(7)地域づくり総合センターについて、これを中核に地域貢献につなげていくという話だったので、私としては「地域づくり総合センター」を目標の言葉として入れて欲しいと思っていた。今まで、関わってきた大学の中で、地域貢献となると、地域企業とのつながりが非常に大きく、そこからお金が出てきたり、人材交流があったり、大きな部分だと思う。

その1つの中核施設と思うので、目標に言葉として入れて欲しいと思っていた。目標には上田市が設置した、まちなかキャンパスうえだはあるが、その上位にあるセンターが目標に入っていないというのは、残念に感じる。ただこれは結論ではないが、中期計画の中には地域づくり総合センターが多く位置付けられているので、これでよしとしないといけないのかもしれないが、目標の中に入れてもらえないのかなというのが私からの意見です。

(事務局) 大学と打合せをする中で、大学の作成した資料4に、地域貢献は、地域づくり総合センターなどが位置付けられており、目標としては地域貢献と捉え、具体的などころについては大学で作る中期計画に表記することとしたいと考えています。

市としても前回お示した重点項目については大学の中期計画、年度計画との関係性の中で、見ていかなければならないと考えており、実行していくよう、配慮したい。

(委員) 了解しました。企業人にしてみると、大学というのは非常に敷居が高いところに見えており、その取りつく場所が欲しい。その取りつく場所を明確に打ち出すことは重要ですし、企業や市民にしてみると、そこが窓口になるということにもなりますので、今後も市、あるいは大学から、広報を通じてそういう部分を明確に打ち出させていただくようお願いします。

(委員) 2点ございます。(3)教養教育の部分で、市の考え方⑤で議会からの指摘を受け、とありますが、どのような指摘がありますが、教えていただけますか。

- (事務局) 第4回評価委員会の資料1の3ページ、市議会からの指摘(ア)イに、指摘がございます。
- (委員) 確認しました。整理すると、議会からの指摘では、人材を育成するとした方が良いとの意見だったということでしょうか。
- (事務局) 議会からの指摘としては、「地域課題や政策課題の解決につなげるため、大学が目指す人材育成に向けた取組を強化すること」とあり、その中で「人材育成に向けた取組を強化すること」という表現があった関係で、当初、全て「人材育成」としたところですが、委員からの指摘を受け、全部を統一した表現にしなくとも、第1期の表現でも意図が伝わると、また「養成」も悪い表現ではないと事務局で考え、第1期と同じものについては同じ表現に改めさせていただいています。
- (委員) 議会からの指摘は、育成や養成という言葉以前の部分の指摘だったということですね。そこは酌まれているということでしょうか。
- (事務局) そのあたりについては、こちらも気を配って見ております。
- (委員) ありがとうございます。そこを理解した上でこちらの意見も出さないといけないと思ひまして、質問しました。
- 次にSDGsについて、10ページです。SDGsをどう扱うかという、大学の考え方と市の意図に関してのことですが、今回、教育に関する目標に移動したとのことですが、確かに教育も必要だと思うのですが、それ以前に大学の運営自体をSDGsのどれを達成するのかを考えなければいけないと思ひます。
- そこで環境が入っているのは良いですが、教育の大学がする研究の内容にSDGsを含めるというところに重点を置くよりは、大学運営において、SDGsを達成するというのが最初ではないかと思ひました。
- 2030年までの目標であり、学生に丸投げではありませんが、それを教育して学生さんがこれからやってもらうということではないと思ひます。
- SDGsの17個の中で、大学により関係が深いと思われる、例えばジェンダーバランスに関してもSDGsに関連してきますし、働き方も、特に女性のジェンダー平等に関しては、男女で同じ仕事をしていれば同じ給料になっているかということで、大学の運営に紐づけた方が分かりやすいのではないかと思ひました。
- (委員長) 自治体の総合計画とかでも17個の目標のここですよとマークを付けたりしている。どこまで文言に盛り込むかも大事ですが、実際にちゃんとやるかと、もしかしたら中期計画にしっかりと17個の目標のどれにするか表示するなり、意識した文言で表現にするか大学に要請するのも手段だと思う。市の方はどうしますか。
- (事務局) 各学部において、例えば社会福学部であれば3番の「すべての人に健康と福祉を」が該当となる部分があり、環境ツーリズム学部、企業情報学部、各学部の違いの中で様々な目標、ターゲットに合致する部分がありまして、個々に記載するのが目標では難しいというところが正直なところですが、大学には中期計画の中ではないですが、年度計画の中で1つずつの取組についてSDGsのどこにあたるかの意識付けをお願いしておりまして、それは中期目標には記載はありませんが、各年度計画の1つずつの事業については大学の方でSDGsについて意識をしながら進めていければと考えています。

(委員) 委員長がおっしゃっていただいたとおり、より具体的な計画の中で、紐づけが行われていければ良いと思いました。ポイントとしては、運営自体でやるのが大事ではないかということでした。

(委員長) この点は理事会やトップの意識、その方向性を出していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(委員) 資料2に大学院教育にリカレント教育を追記したんですが、逆に今まであった、学部ではリカレント教育をやらないとも読めるのですが、それはそういう発想ですか。

(事務局) リカレントにつきましては、大学とも協議した結果、大学院での状況を踏まえ、大学院にまとめさせていただいております。

(委員) もともとの原案(6ページ)が、「リカレント教育や生涯学習」が併存する形だったのですが、それぞれ定義としてははっきりしているのでしょうか。生涯学習はリカレント教育も含むということですか。

(事務局) 捉え方は色々あると思いますが、生涯学習とリカレントは別と言え別であると考えております。

(委員) リカレント教育は注目されていますが、そこは学部ではやらないということに決めて大丈夫ですか。

(委員長) 逆に書かないからやらないという訳でもない。中心になるのが大学院で、他でも可能な範囲でやるということ。今、国ではリスクリングを強く求めている。直ちにここをリスクリングにする必要はないと思いますが、総務省も文科省も色々な考えがあって、明確な定義は必ずしもきっちり認識されている訳ではない。

リカレントでもリスクリングでも良いが、しっかりやっていくことが、これからの大学のミッションになる。それを踏まえてどうするかは大学と市の考え。学部は一切やらない訳ではなく、中核的になるのは大学院という感覚で読んだんですが。いかがですか。

(事務局) その考えでよろしいかと思います。

(委員長) 他にも御意見があると思いますので、続きをお願いいたします。

(委員) その下、大学院パンフレットからの引用とある件ですが、パンフレットは中期目標から引用していたりしていないかなど、本当に適切な表現なのか、再度検討いただければと思います。また、3ページ目に「推進する」「図る」と記載があるが、6年後の到達度が書かれていないことについて、中期計画に書きますとあります。資料4を見てもほとんど同じ表現で、これは検討中ということで、後日、達成度について書き込まれる作業をされるという理解でよろしいでしょうか。

(事務局) 達成度の考え方は指標として考え、例えば国家資格の合格率や、就職率、卒業生における就職進学率など、指標という見える形での成果、到達度を表現していきたい。大学側で協議している中で、まだお示しできていない部分があるが、そういう表現で事務局としては考えている。

(委員) KPIを大学の運営についてどこまで書けるのか、全てを数値化することは無理だと思う。6年前の評価委員会の議論の議事録を見ても、同じように数値目標の話がなされていて、中期

計画を議論する時に、同じような議論が出ると思うので、その時の議論を市、大学で受けてとめていただいたうえで作業を進めていただきたい。

(事務局) 承知した。

(委員) 続いて5ページ、⑫です。言いたかったのは、「学術研究」と、「地域ニーズに対応した研究」、そして「研究水準の向上を図る」というのは3つ別々であると思っている。

コメントは、学術研究が地域ニーズに対応した研究の一部のように、あるいは学術研究が地域ニーズ研究のために行うみたいにも読めるように書いてある。

そこをもっと分かりやすくするべきという趣旨で言っている。地域ニーズに対応した研究を否定している訳ではない。

(事務局) ご指摘の学術研究という部分もあると思いますが、市として大学に求める一番のものは、地域や産業界ニーズに対応した研究に取り組んでもらいたいということです。地域貢献に係る部分で、そこを明記させていただいています。

(委員) 理工系に限らないかもしれませんが、優秀な研究者を集める事は大事だと思います。

その時に、地域ニーズの研究をやってくださいということでは全国から集められるのかを心配している。

地域ニーズ最優先で、ほかを犠牲にしてもやってくださいということで研究者が集まるのか、よく考えた方が良く思うし、大学が一番よく分かっていると思うので、大学と良く相談していただきたい。

「(2) 研究成果の公表と地域への還元に関する目標」も、「共同研究を推進します」「研究活動や研究成果を積極的に発信します」「その成果を地域に還元します」この3つそれぞれあると思いますが、地域共同研究の成果を積極的に発信するしか言っていないようにも読めることを危惧してのコメントです。

8ページ、⑭の意見、税金で賄われる云々について、全国の国公立大学は同じ状況であると思いますが、信州大学がないのは分かりましたが、他の公立大学ではこういったことが書いてあるのですか。

(事務局) 他大学であまりこういった表現はされておられません。今回、税金で賄われているということをあえて市として書いている。

(委員長) 「運営交付金」とあったのを「税金で」を加えた形にしたのは今回初めてですね。

(事務局) 税金の部分を加えたのは今回初めてです。お金に対して、より強いメッセージとして、敢えてこのような表現にしています。

(委員) いずれにしても、他の公立大学には書いていないものを敢えて入れるということですね。その上の⑮の同額ではありませんとは、どう違うのか。どちらかが、差額があるということですか。

(事務局) 基準財政需要額以下で、運営費交付金を交付している。

(委員) 基準財政需要額の全額は出していないということですか。

(事務局) 全額を出した年もあるが、例年、財政との協議の結果、全額出していない場合もある。

- (委 員) 経費の抑制を経費節減としているが、言葉として意味は違っているのか。
- (事務局) 以前の人件費を含む経費の抑制を図るという表現になっていましたが、その部分を業務運営の徹底した効率化と合理化により経費節減を図ると、人件費という表現を削除した形で整理しています。
- (委 員) 経費抑制と経費節減の意味は違うのか。経費の節減とは、具体的にどういう状況か。
- (事務局) 経費節減と経費抑制というのは、広く節減することも含めて、色々とカットできるものは努めてもらいたい。こういった意図で抑制を節減にさせていただいています。
- (委 員) 前と表現は違うのか。
- (事務局) 意味はそれほど違いません。
- (委 員) 理工系を設置すれば、一時的には経費は増大するが、そこは許容していると理解して良いか。
- (事務局) そういったものを含めて、節減するとは言っていない。
- (委 員) その点は、誤解が無いようお願いしたい。9 ページ目のコンプライアンスのこと、直す方向は良いが、体制の強化をすれば良いということか。
- (事務局) まずは、体制の強化をお願いしたい。
- (委 員) 11 ページの最後のその他のところで、6 年前の議事録だけを見ると、その時の10月の評価委員会では、資金的な説明があった。今回は、第2期中期計画のときに説明があるということの良いか。
- (事務局) その予定です。
- (委 員) 地域との連携、特に教育に絡みますが、法律が変わって、県工科短大の学部編入が可能となった。具体化するのには、これからかと思うが、そこら辺の動きについて、市としてどう考えていて、中期目標のどこの項目に入るのか。
入ってなければ、そういったことも考えたうえでの、中期目標にした方が良いのではないか。
- (事務局) 長野県工科短期大学が厚労省の管轄で、大学校の学生が、文科省の四大学に編入できるという制度のことと思います。それにつきまして、県内で言えば、信州大学、諏訪東京理科大学が該当する。
長野大学についても、理工系学部を設置する流れの中で、3年生で編入できるという点は、かなり良い点と考えている。大学として、3年生が出る期間までに、中期目標に記載できるかという点と、まだ理工系の内容が決まっていないうなかで、記載するには早いと考えている。
もちろん、検討は進めていくことにはなるが、理工系の形が見えてきた際に、学生の確保のひとつの要素ということで、検討を進めていきたい。今の段階では、中期目標への記載はハードルが高いと考えている。

(委員) 書く、書かないは別として、それを念頭に置いて、市、大学なりでチャンスとして捉えて、これから検討が進むということによろしいか。

(事務局) 学生が入ってくるひとつのチャンスとして、長野大学から距離が近い県工科短大とwin-winの形となると思います。学部設置の際には、そういった面も検討する内容のひとつと考えている。

(委員) 資料4の項目23の経費節減を図るとあるが、コメントとして、人件費を含むというところが、私の意見とすると削除していただくことをお願いしたが、中期計画案に記載が残っていて、これはたぶん古いとは思いますが、中期計画案の検討のなかで、委員会の議論の状況も踏まえたうえで、作業を進めてもらいたい。

(事務局) 中期目標と中期計画の大学との協議に時間差があり、委員の指摘のとおり、まだ修正中となっている。ご指摘の事項について、大学と協議を進めていきたい。

(委員) 8ページの経費抑制に関する目標について、「財務健全性の確保」については入れておいて欲しい。指標とは、分析する時に使う用語で、それを使う企業は多い。

学校について、指標を使うことは恐らく難しいと思いますが、何でもかんでも経費節減になってしまうと、必要なものまで切ってしまうと怖いと思う。大学の運営の健全性があれば、多少、経費が増えても仕方ないと考えます。

(事務局) 「大学運営の財務健全性を確保しながら」を追記したいがいかがでしょうか。財務健全性とは、運営の中で赤字を出さないというところを考えての一文を入れさせていただきたい。よろしいでしょうか。

(委員長) その方向で案に入れてください。メリハリをしっかりとつけることだと思います。無駄な所は、しっかりと削りつつ、大学として、輝けるところについては、単純に1割カットということではなく、やることかと思えます。

長野県立大学の目標を見るともっとシンプル。目標も大事です。ただこれに基づいて6年間しっかり大学運営をしていく中期計画、これが更に大事になる。

課題を抱えている中で、厳しい時代が来ているので、市も市の大学として言うべきことは言い、議論し、大学も言うことは言うでしょうけど、良い大学になっていただきたい。

この議論を参考に意見書案を作成いただき、事務局から連絡するとのこと。12月議会の議決案件ということで、最終的な微調整などありましたら、細かいところは委員長と事務局に一任してもらえればと思います。

3 その他

- ・今後の予定について 事務局から説明

(委員) 意見書案のイメージは、どのようなものか。記載例のようなものを事務局でまとめられてその案を近日中に送られるということで良いか。

(事務局) 委員から出た財務健全性のところを修正した中期目標の案に、意見書案の「下記」のところの、「別添のとおりとすることが適当である。」というところで修正した中間目標を添付した形での意見書と考えております。

「意見ありの場合」として記載している部分は、委員からの特段の考えがあれば追記するようになると思います。本日の中では別添のとおりとすることが適当であるとする意見書に中期目標を添付させていただきたい。

(委員) 言いつばなしになっているところの取り扱いは、どうなるのか。

(事務局) 先ほど頂いた御意見の中で、資料2の5ページ淡水研の学術研究のところ、大学とよく相談して欲しいとお話しの反映ということで良いか。

(委員) そのとおり。地域研究に偏ることなく、3つあることがわかるようにすべき。

(事務局) 全てのことを書くのではなくて、大学としては、長野大学に地域ニーズに対応したことをお願いしたいという市の考え方であれば、それはそれで良いと考えて良いか。

(委員) 学術研究をしっかりとやっていくと言わないと良い人材が集まらないのではないか。これはあくまでも、個人的な意見。

(委員長) これは、評価委員会として、意見を出す訳で、それが本文に全て反映されなくても、大学に伝われば、結果的に中期計画に反映できれば良いと思う。

どういった文書になるかもあるが、一般論であれば、学術研究をしなければならないというのはどこの大学も一緒。委員のおっしゃるのはもっともな事なので、どこまで書いちゃ駄目ということも無いと思う。

基本的に、委員のセンターの名称を入れて欲しいというのも入れていいと思う。ただそれは計画として、今回は入れませんという市の考えでも良いと思う。書くという考えも書かないという考えもある。

委員からこういった意見が出たからと言って反映するかしないかは市の考えである。それを見て議員の意見もあるだろう。概ね、出た意見は、必ずしも目標に文言が入らないにしても、意見書に今後こうして欲しいということを記載する形で良いと思う。

4 閉 会